

'04

NPO愛知ネット 活動記録2004



その活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人

NPO愛知ネット 活動記録2004

その活動は 災害時の 情報のために。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、被災状況など必要な情報を逐次流してきました。そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と、いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。「災害救援」、「防災啓発」、「在日外国人支援」、「市民活動支援」の4つからなる活動は、被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。



被災地での救援活動
各種防災訓練の実施
被災地域外からの支援活動
安否確認システム

防災啓発

Preparedness enlightenment

間近に迫っている東海・東南海地震への備えを中心に、防災訓練・自主防災活動計画支援・災害図上訓練・防災グッズ講習など、あらゆる地域や場面での災害対策について、啓発活動を行っています。



各種防災講座
啓発のためのセミナー・講演会・フォーラムの実施
地域防災活性化のための支援

在日外国人支援

Foreigner support

日本に住んでいる外国人の方を「コミュニケーション」の面から支援しています。外国人の抱える問題は言葉だけではなく、言葉の問題はやはり一番大きな問題です。NPO愛知ネットはそんな「言葉さえ通じれば」を手助けします。



医療通訳養成講座
電話通訳システム「いっつもトーク」

市民活動支援

Citizen activity support

ボランティア活動団体、市民団体、NPOで活動している皆さんが活動しやすい環境づくりを目指して、「安城地域サポートセンター」「安城市民活動センター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案します。



「安城地域サポートセンター」の運営
「刈谷市民ボランティア活動支援センター」の運営
「安城市民活動センター」の運営

NPO愛知ネット 活動記録2004

その活動は、災害時の情報のために

防災・災害救援に関する事業

近年の東海・東南海地震強化地域の拡充に伴って、NPO愛知ネットに対する地域からの防災活動に関するニーズが以前にも増して多くなってきました。

このような状況に際してNPO愛知ネットはこれまで行ってきた各種の啓発・訓練、情報伝送に関する各種実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には各地防災訓練への参加、安否確認システムの普及のための活動がそれにあたります。

また、全国各地で相次いだ災害により被災した地域に赴き、情報発信支援やボランティアバスの派遣など積極的に救援活動を行いました。



7月の新潟豪雨災害の現場、写真は中之島町の様子。中央に建っていた民家1軒を遠くへ押し流した。この災害は要援護者の問題について議論するきっかけにもなった。



9月、高潮による災害対応のために設置した高松災害ボランティアセンター。台風の影響で海面が上昇し浸水した。偶然にも浸水エリアは東南海地震津波予測と一致。



10月の新潟中越地震。写真は最も強くゆれた川口町にある民家。相次ぐ余震でほとんどの家が全壊となった。



あいち中越支援ネットワークの活動。川口町田舎山でバスを出し、救援活動を行った。写真は「大工隊」による家屋修繕。他に引越し、お祭りなどで活動した。



中越地震の被災地は年明けから例年になく大雪となり、被災地は地震に続くダブルパンチのダメージを受けた。田畑の復旧や仮設生活など住民を不安にさせた。



住民の声を確実に聞き取るためにおこなった、パソコンとスキャナを前にカレンダーをつくる「思い出のアルバム作り」。写真に詰まった思いが自然に話される。

- | | |
|-------------------|------------------|
| A:愛知県・豊橋市総合防災訓練 | 平成16年8月 |
| B:吉良町総合防災訓練 | 平成16年8月 |
| C:幡豆町総合防災訓練 | 平成16年12月 |
| D:西尾市西尾小学校防災フェスタ | 平成16年10月 |
| E:西尾市花ノ木小学校防災フェスタ | 平成16年10月 |
| F:新潟豪雨災害救援活動 | 平成16年7月 |
| G:高松高潮災害救援活動 | 平成16年9月 |
| H:あいち中越支援ネットワーク | 平成16年11月～平成17年3月 |
| I:安否確認システム | 通年 |

- 豊橋市三河港、愛知県東大手庁舎
吉良町役場
幡豆町役場
西尾市西尾小学校
西尾市花ノ木小学校
新潟県三条市、中之島町
香川県高松市
新潟県川口町
事務局

防災に関する啓蒙啓発事業

NPO愛知ネットは災害救援・防災支援団体として、地域住民への防災の啓蒙を目的とした各種の講演会、講習会、シンポジウム、研修、訓練、などを以下のように実施しました。東海・東南海地震に備えた啓発活動はもとより、相次ぐ災害の映像や救援体験を踏まえた講演などテーマは多岐にわたりました。



安城市防災リーダー研修会。町内ごとに防災活動の担当者を養成する目的で行われている。カリキュラム中ワークショップをNPO愛知ネットが担当した。



4月に行われた市民防災フォーラム2004。講演は関西学院大学の松原一郎教授。災害時要援護者について詳しく聞く機会は意外に少なく参加者の関心は高かった。



安城市自主防災支援事業。「訓練だけが防災活動ではない」と、ある町では講座を複数回実施。手前のティッシュ箱は家具の倒れ方を教える教材。



サンプルの持ち出し袋から出てくるものの多さに驚く参加者。以外に日用品が多く、100円ショップで手に入るものばかり。



ある町では「事前準備をしない訓練」を例年試みている。この写真は準備風景ではなく訓練中の模様。何も無いところ、役割を決めるところから訓練を始める。



ある町では町内の建材業者の協力を受け、グラウンドに倒壊現場のセットを作った。実際にジャッキで上げてみると意外と簡単に柱を持ち上げることができる。

- A:安城市自主防災組織支援事業
- B:安城市ワード講習会
- C:安城市西部公民館防災講座
- D:名古屋市中区生涯学習センター防災講座
- E:市民防災フォーラム2004
- F:安城市防災リーダー研修会
- G:安城市地域福祉活動勉強会
- H:安城東高校職員向け防災講座
- I:知立南小学校防災講座(総合学習)
- J:桜井小学校防災講座(総合学習)
- K:愛知県ふれ愛ねっとフェスティバル出展

- 平成16年6月～12月
- 平成16年10月～12月
- 平成16年5月～6月
- 平成16年5月～6月
- 平成16年4月
- 平成17年2月
- 平成16年7月
- 平成16年10月
- 平成17年1月
- 平成16年9月
- 平成17年1月

- 安城市内7箇所
- 安城市文化センター
- 安城市西部公民館
- 名古屋市中区生涯学習センター
- 西尾勤労会館
- 安城消防署
- 安城市内公民館・福祉センターなど5箇所
- 安城東高校
- 知立市知立南小学校
- 安城市桜井小学校
- 愛知県勤労会館

NPO愛知ネット 活動記録2004

その活動は、災害時の情報のために

在日外国人の支援に関する事業

安城市をはじめとした三河地域は、製造業が盛んな土地柄、大きな工場が林立して、外国人労働者の受け入れが盛んな土地でもあります。にもかかわらず、現状では外国籍市民と地域市民とのコミュニケーションは不足しており、両者どちらにとっても自分たちの住んでいる地域に、交流のない人達がいることによる不安感がぬぐえないでいます。特に東海地域は地震災害が懸念される地域でもあるため、その不安感はなおさらです。お互いが交流し、両者の(安心)の共有化につながるような多文化共生コミュニティを創出・促進することは、(安全)なまちづくりを推進している私たちNPO愛知ネットにとっては欠かすことの出来ないミッションです。

このような外国籍市民が多数居住する三河地区の特性を踏まえ、非常時、緊急時、平常時を次のように想定して、在住外国人の支援に関する事業を、今後とも継続して展開していきたいと考えています。



いっつもトークコールセンター。通訳が常駐している。データベースで過去の質問を検索するなど迅速に通訳する工夫もしている。



通訳1名がオペレートする機材一式。データベースを検索・登録するためのパソコンのほかヘッドセットIP電話などが置かれている。



IP電話と通常の電話回線を交換するサーバ。IP電話を利用することで、コストを抑えインターネット網を使ってどの場所でも同じ事業が行えるようにした。



いっつもトークの詳細を伝えるホームページ。リモート通訳システムを解りやすく紹介している。



この仕組みは今までなかった画期的なものだとしてTVなど様々なメディアで紹介された。



現在病院での実用化がされている。医療通訳は通常の通訳と違い責任やスキルが要求されるため、いっつもトークに対するニーズも高い。

A:電話通訳(いっつもトーク)センターを構築する

平成16年8月～平成17年2月 安城市末広町 安城地域サポートセンター

B:電話通訳(いっつもトーク)センターを運営する

平成17年2月～ 安城市安城更生病院、豊田市トヨタ記念病院、名古屋市博覧会協会

C:通訳スタッフ養成講座を開講する

平成17年2月 安城地域サポートセンター

市民活動活性化のための支援事業

災害下での情報支援や地域情報化支援のためには市民活動そのものの活性化支援が重要であると考え、ボランティアや市民活動を支援するセンターを核とした市民活動団体支援を行ってきました。特に平成16年度は、引き続き刈谷市民ボランティア活動支援センターの運営とともに、1年間の実績を活かして安城市の市民活動センターの運営にも携わることができました。また市民活動活性化の一環としての情報化支援は重要であることから、ホームページ作成・システム運営も継続して行っています。一方、みかわNPOスクエアの運営については、入居団体の自立を図ることができつつあると考え、平成16年12月をひとつの区切りとして事業のウエートを軽減させる方向で進めてきました。このようなことを踏まえ、関連する事業を以下のように実施しました。



1月、安城市民活動センターの開所式テープカットにて。センターの愛称は「わくわくセンター」。右から早川市議会議員、神谷市長、天野理事長。



わくわくセンターのある秋葉いこいの広場レストハウス。17年4月からNPO愛知ネットはこの施設の指定管理者となった。



わくわくセンターの企画のひとつである「わくわくサロン」市内のボランティア関係者が熱心にゲストの話聴く。



2年目を迎えた刈谷市民ボランティア活動支援センター。多くの利用者が訪れる。利用者はまもなく一万人になる。



相談を担当する常駐スタッフ。スタッフと利用者のつながりやセンターに集積する情報も豊富になり、相談への対応は迅速だ。



開設当初から運営している情報サイトの利用を説明する講習会。定期的にご利用者のケアをすることでサイトに上がる情報の質が向上する。

A:みかわNPOスクエア運営

平成16年04月～平成17年03月 安城市東栄町

B:刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営受託

平成16年04月～平成17年03月 刈谷市寿町

C:安城市民活動センター（わくわくセンター）管理運営受託

平成17年01月～03月 秋葉いこいの広場レストハウス1階（安城市大山町）

D:CODOMO体験キャンプの開催

平成16年7月 安城市野外学習センター（南設楽郡作手村）

E:その他地域自主グループ支援(刈谷市異文化交流サロン)

平成17年3月 刈谷プラザホテル（刈谷市相生町）